

主要授業科目の概要

2025年4月1日

芸術学部音楽学科

科目名称	授業形態	単位数		配当年次	ディプロマ・ポリシー				授業科目概要
		必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4	
初年次教育・情報リテラシー	講義	2		1年	○	○	○		・初年次教育：学生の自己理解と他者理解を促し、初年次学生が身につける「7つの力（主体的に学ぶ力、コミュニケーション力、問題を解決する力、自分を知る力、書く力、調べる力、話す力）」を学びながら、大学に対するポジティブな理解がもたらされることを目的とする。 ・情報リテラシー：外界の刺激によって行動や意思決定に利用され、対象の理解や社会の輪郭に大きな影響を与える「情報」は、受け渡し、蓄えるという行為によって「知る」ことを実体化する私たちの営みに深く関わっています。しかし、目に見えにくい「情報」は、通信技術を通じ数量的に扱う機会が増える一方で、適切な取り扱いをより求められる機会が増えています。本授業では、体験を通し「情報」の受け手のみならず、発信するための技能や批評的・創造的な感性を身につけながら、自身の活動に利用していくことを学びます。
建学の精神と大谷学 A	講義	2		1年	○	○			札幌大谷大学は、鎌倉時代の僧侶、親鸞聖人（1173-1263）の仏教思想（浄土真宗）を建学の精神に据える大学です。仏教は、今から2500年前のインドで生まれた宗教です。その思想は、アジア各地の文化に影響を及ぼしました。日本文化の基礎にも、仏教の影響が色濃く認められます。 この授業では、仏教思想を学ぶことを通して、仏教の思考法と日本文化の背景を理解すると共に、札幌大谷大学で学ぶ意義について考えます。
音楽史 A	講義	2		2年				○	① 単に音楽作品の歴史的發展を辿るだけではなく、音楽に関わる人間の文化的・社会的な営みを、歴史的な文脈のなかで幅広く理解する。 ② 中世におけるグレゴリオ聖歌と教会音楽の発達、ルネサンス時代の教会音楽と世俗音楽、バロック時代、古典派のそれぞれの音楽様式を理解する。
音楽史 B	講義	2		2年				○	① 単に音楽作品の歴史的發展を辿るだけではなく、音楽に関わる人間の文化的・社会的な営みを、歴史的な文脈のなかで幅広く理解する。 ② 19世紀から、近代、20世紀までの西洋音楽及び明治時代以降の日本の洋楽それぞれの音楽の特徴と時代背景との関わりを理解する。
ソルフェージュ A	演習	1		1年				○	音を記憶したり、頭の中でイメージしたりする力を養う基礎的な訓練を行います。これらの力は読譜や記譜に役立つのはもちろん、音楽を分析的にとらえ、その構造を理解することにもつながります。訓練は聴音、視唱、試奏、リズム打ちに加え、楽譜を用いず音楽を聴くことだけで行う分析や、移調奏・移調唱、和音付けなどを、習熟度に応じて設定します。
ソルフェージュ B	演習	1		1年				○	音を記憶したり、頭の中でイメージしたりする力を養う基礎的な訓練を行います。これらの力は読譜や記譜に役立つのはもちろん、音楽を分析的にとらえ、その構造を理解することにもつながります。訓練は聴音、視唱、試奏、リズム打ちに加え、楽譜を用いず音楽を聴くことだけで行う分析や、移調奏・移調唱、和音付けなどを、習熟度に応じて設定します。
ソルフェージュ C	演習	1		2年				○	音を記憶したり、頭の中でイメージしたりする力を養う基礎的な訓練を行います。これらの力は読譜や記譜に役立つのはもちろん、音楽を分析的にとらえ、その構造を理解することにもつながります。訓練は聴音、視唱、試奏、リズム打ちに加え、楽譜を用いず音楽を聴くことだけで行う分析や、移調奏・移調唱、伴奏付けなどを、習熟度に応じて設定します。
ソルフェージュ D	演習	1		2年				○	音を記憶したり、頭の中でイメージしたりする力を養う基礎的な訓練を行います。これらの力は読譜や記譜に役立つのはもちろん、音楽を分析的にとらえ、その構造を理解することにもつながります。訓練は聴音、視唱、試奏、リズム打ちに加え、楽譜を用いず音楽を聴くことだけで行う分析や、移調奏・移調唱、即興的な伴奏付けなどを、習熟度に応じて設定します。
合唱 I	演習	1		1年	○	○			声楽アンサンブル課基本である正しい呼吸法と発声法課上に、表現力豊かなハーモニーを身につける。 ○ 前期謳ヴォイストレーニングに重点を置きながら、テキストとして様々な合唱作品を取り上げる。 前期課半荘から定期演奏会で取り上げる作品に取り組み、より高度なアンサンブルを学習する。
合唱 II	演習	1		1年	○	○		○	「合唱 I」に引き続き声楽アンサンブルの基本である正しい呼吸法と発声法の上に、表現力豊かなハーモニーを身につける。後期は定期演奏会で取り上げる作品に取り組み、より高度なアンサンブルを学習する。
卒業研究	演習	4		4年		○	○	○	4年間で培った学習の総仕上げとして、卒業研究として認定された課題に取り組む。
音楽療法概論	講義	2	1年			○	○	○	1 音楽療法についてその歴史や理論的背景を理解する。 2 音楽療法の事例を紹介し、どのような音楽療法が求められるかについて考察する。 3 音楽療法士としての倫理観を理解する。
音楽療法の理論	講義	2	1年			○	○	○	音楽療法の定義や歴史などの基礎的知識を学びます。また、主な対象領域の実践について、さらに対象者にあった音楽を提供できるように音楽の機能その他について学んでいきます。
音楽療法の技法	講義	2	1年			○	○	○	音・音楽を治療に利用するとはどういうことでしょうか。この授業では、音楽のもつ生理的、心理的、社会的作用を理解するとともに、対象者にあった音・音楽の基本的な使い方について学びます。また、対人援助としての音楽の役割について考えます。
音楽療法各論 I	講義	2	2年			○	○	○	障害児への音楽療法に焦点を当て、実際のセッションを組む際に必要となる子どものアセスメント、治療目標の設定、治療構造の設定、治療プログラム、評価の仕方や留意点について理解する。
音楽療法各論 II	講義	2	2年			○	○	○	高齢化社会において音楽療法のニーズが高まりつつある高齢者における音楽療法について学びます。 高齢者が抱える身体面や心理面についての知識を得ることで理解を深めます。さらに、音楽療法を行う上で考慮すべき点を考えながら、高齢者にとって音楽療法がどのような役割を担っているかを学びます。 この授業ではさまざまな事例に基づき、音楽療法の目的、技法、評価について学びます。
音楽療法各論 III	講義	2	3年			○	○	○	1 医療分野における対象者の疾患について知識を得る。 2 医療分野、特に精神科領域、緩和ケアについて学ぶ。
音楽療法技能 A	演習	1	1年		○	○			音楽療法の臨床場面で求められる音楽の基礎的な技術を身につけます。授業では、臨床場面で使用される曲について調べ、曲の背景を理解できるようにします。また、曲の背景が理解できた上で、対象者に合わせた音楽について何が必要であるかを考えます。さらに、対象者に合わせた音楽が臨機応変に提供できるような臨時的な技術を身につけます。
音楽療法技能 B	演習	1	1年		○	○		○	音楽療法実践の基本的な技能である伴奏の技術を磨きます。基礎的なピアノ演奏法を学び、実践場面を踏まえ、歌唱に伴奏付けを行います。合奏の基本的技術、即興演奏の技術等、臨床場面で必要な技能を身につけます。
音楽療法技能 C	演習	1	2年		○	○		○	音楽療法実践を行う上で必要な、即興演奏の知識・技術の習得を目的とする。また、音楽療法実践で必要となる、鍵盤楽器による伴奏付け、移調、アレンジを対象者に応じて表現する技術を習得し、臨機応変に演奏を変化させる技術を習得する。
音楽療法技能 D	演習	1	2年		○	○		○	音楽療法実践を行う上で必要な、即興演奏の知識・技術の習得を目的とする。音楽的イディオム、伴奏形を自由に使い分け、行動の変化に同調させたり、反応を引き出す弾き方をしたり、臨機応変に演奏を変化させる技術を身につける。
音楽療法技能 E	演習	1	3年		○	○		○	音楽療法の実践に求められる臨床的音楽技術について、演習を通して学びます。
音楽療法技能 F	演習	1	3年		○	○		○	音楽療法の実践に求められる臨床的音楽技術について、演習を通して学びます。
音楽療法演習 I	演習	1	1年		○	○	○	○	音楽療法の対象者を児童、成人、高齢者の3領域とし、その活動内容を学ぶ。グループに分かれ、それぞれの役割の中で音楽療法をどのように実践していくかを議論し、検討することを目的とする。
音楽療法演習 II	演習	1	2年		○	○	○	○	1 音楽療法士として必要な感性化トレーニングを行う。 2 ロールプレイを通して音楽療法士としての基本的な対応の技術を体得する。 3 チームケアとしてのグループ活動を体験する。
音楽療法実習 I	実習	2	2年		○	○	○	○	実習に必要な態度を身につけ、社会福祉施設や病院実習で考慮すべき事項を学ぶ。礼儀、服装などについて確認をし、音楽療法士としてふさわしい態度を身につける。施設、病院の音楽療法を観察、記録しその後、観察内容についての疑問点を話し合い、音楽療法士としての能力を養う。
音楽療法実習 II	実習	2	3年		○	○	○	○	講義、演習、「音楽療法実習 I」で学んだ知識や技術を実践を通して確かなものにするともに、音楽療法士としての姿勢や態度を学ぶ。実習生の立場をわきまえ、施設や病院の職員からの指導を受ける。
音楽療法実習 III	実習	2	4年		○	○	○	○	音楽療法実習は音楽療法士を志す学生が児童、成人、高齢者領域において、施設、病院で実践を体験する中で、自らの決意と適性を確認するものである。音楽療法士としての資質や能力を体得することも目的である。音楽療法実習に際しては、施設や病院の音楽療法士や職員のもと、誠実にかつ意欲的に取り組みなければならない。音楽療法が治療的行為であるために、対象者を知り、効果的なセッションの組み立てを実践し、客観的・主観的観察による評価を行うことにあ

科目名称	授業 形態	単位数		配当 年次	ディプロマ・ポリシー				授業科目概要
		必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4	
実技演奏法Ⅰ（主専攻・〔楽器名又は専攻科目名〕）	実技		3	1年		○		○	ピアノ ピアノ演奏の基礎であるテクニックの習得と作品解釈の基礎になる読譜力の向上を目指す。 バロック、古典、ロマン、近現代の各時代の曲の構成、楽譜の読み取り方を研究する。 個人指導のレッスン形式で、それぞれの技術、経験に応じた選曲をする。 声楽 まず、基本的な呼吸法、発声法を学ぶ。 正しい立ち方から始まり、声の出し方等、声楽に必要な訓練を徹底的に行う。 教材としては声質やレヴェルに適った教材を用い、時間をかけて学習する。 伴奏は学生が担当し、併せて伴奏指導も行う。 管弦打楽 音楽的な基礎を習得するための実技指導を個人レッスンで行う。伴奏付きのレパートリーによりピアニストとのコミュニケーションやアンサンブル能力を習得する。 電子オルガン 電子オルガン実技指導や楽曲アナリゼを個人レッスンで行い、基礎的な演奏テクニックや表現力を養います。レガート奏法、タッチコントロール、ペダル奏法など必要な奏法、楽曲中でマスターし、必要であればエチュードを用いて補強し、スコアを用いて読譜曲も実習していきます。
実技演奏法Ⅱ（主専攻・〔楽器名又は専攻科目名〕）	実技		3	1年		○		○	
実技演奏法Ⅲ（主専攻・〔楽器名又は専攻科目名〕）	実技		3	2年		○		○	
実技演奏法Ⅳ（主専攻・〔楽器名又は専攻科目名〕）	実技		3	2年		○		○	
実技演奏法Ⅴ（主専攻・〔楽器名又は専攻科目名〕）	実技		3	3年		○		○	
実技演奏法Ⅵ（主専攻・〔楽器名又は専攻科目名〕）	実技		3	3年		○		○	
実技演奏法Ⅶ（主専攻・〔楽器名又は専攻科目名〕）	実技		3	4年		○		○	
実技演奏法Ⅷ（主専攻・〔楽器名又は専攻科目名〕）	実技		3	4年		○		○	
作曲・編曲実技・サウンドクリエイションⅠ	実技		3	1年		○		○	作曲の実技指導を行います。また、必要に応じて、参考となる楽曲の鑑賞・分析や、和声法、対位法、管弦楽法の指導も行います。作曲の課題内容と、作曲方法については、各自の興味・関心および習熟度に応じて設定します。
作曲・編曲実技・サウンドクリエイションⅡ	実技		3	1年		○		○	
作曲・編曲実技・サウンドクリエイションⅢ	実技		3	2年		○		○	
作曲・編曲実技・サウンドクリエイションⅣ	実技		3	2年		○		○	
作曲・編曲実技・サウンドクリエイションⅤ	実技		3	3年		○		○	
作曲・編曲実技・サウンドクリエイションⅥ	実技		3	3年		○		○	
作曲・編曲実技・サウンドクリエイションⅦ	実技		3	4年		○		○	
作曲・編曲実技・サウンドクリエイションⅧ	実技		3	4年		○		○	
実技演奏法Ⅰ（副専攻・〔楽器名又は専攻科目名〕）	実技		2	1年		○		○	音楽的な基礎を習得するための実技指導を個人レッスンで行う。
実技演奏法Ⅱ（副専攻・〔楽器名又は専攻科目名〕）	実技		2	1年		○		○	
実技演奏法Ⅲ（副専攻・〔楽器名又は専攻科目名〕）	実技		2	2年		○		○	
実技演奏法Ⅳ（副専攻・〔楽器名又は専攻科目名〕）	実技		2	2年		○		○	
実技演奏法Ⅴ（副専攻・〔楽器名又は専攻科目名〕）	実技		2	3年		○		○	
実技演奏法Ⅵ（副専攻・〔楽器名又は専攻科目名〕）	実技		2	3年		○		○	
実技演奏法Ⅶ（副専攻・〔楽器名又は専攻科目名〕）	実技		2	4年		○		○	
実技演奏法Ⅷ（副専攻・〔楽器名又は専攻科目名〕）	実技		2	4年		○		○	
実技演奏法Ⅰ（副科・〔楽器名又は専攻科目名〕）	実技		1	1年		○		○	音楽的な基礎を習得するための実技指導を個人レッスンで行う。
実技演奏法Ⅱ（副科・〔楽器名又は専攻科目名〕）	実技		1	1年		○		○	
実技演奏法Ⅲ（副科・〔楽器名又は専攻科目名〕）	実技		1	2年		○		○	
実技演奏法Ⅳ（副科・〔楽器名又は専攻科目名〕）	実技		1	2年		○		○	
実技演奏法Ⅴ（副科・〔楽器名又は専攻科目名〕）	実技		1	3年		○		○	
実技演奏法Ⅵ（副科・〔楽器名又は専攻科目名〕）	実技		1	3年		○		○	
実技演奏法Ⅶ（副科・〔楽器名又は専攻科目名〕）	実技		1	4年		○		○	
実技演奏法Ⅷ（副科・〔楽器名又は専攻科目名〕）	実技		1	4年		○		○	

芸術学部美術学科

科目名称	授業形態	単位数		配当年次	ディプロマ・ポリシー				授業科目概要
		必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4	
初年次教育・情報リテラシー	講義	2		1年	○	○	○		・初年次教育：学生の自己理解と他者理解を促し、初年次学生が身につける「7つの力（主体的に学ぶ力、コミュニケーション力、問題を解決する力、自分を知る力、書く力、調べる力、話す力）」を学びながら、大学に対するポジティブな理解がもたられることを目的とする。 ・情報リテラシー：外界の刺激によって行動や意思決定に利用され、対象の理解や社会の輪郭に大きな影響を与える「情報」は、受け渡し、善えるという行為によって「知る」ことを実体化する私たちの営みに深く関わっています。しかし、目に見えにくい「情報」は、通信技術を通じ数量的に扱う機会が増える一方で、適切な取り扱いをより求められる機会が増えています。本授業では、体験を通じ「情報」の受け手のみならず、発信するための技能や批評的・創造的な感性を身につけながら、自身の活動に利用していくことを学びます。
建学の精神と大谷学 A	講義	2		1年	○	○			札幌大谷大学は、鎌倉時代の僧侶、親鸞聖人（1173-1263）の仏教思想（浄土真宗）を建学の精神に据える大学です。仏教は、今から2500年前のインドで生まれた宗教です。その思想は、アジア各地の文化に影響を及ぼしました。日本文化の基礎にも、仏教の影響が色濃く認められます。 この授業では、仏教思想を学ぶことを通じて、仏教の思考法と日本文化の背景を理解すると共に、札幌大谷大学で学ぶ意義について考えます。
西洋美術史 A	講義	2		1年	○				本授業では、古代から近世16世紀までの流れを解説しながら、西洋美術史の基礎知識を教授する。美術史とは、言葉や文章による叙述と、視覚的イメージを合体させて、歴史の流れを浮かび上がらせるものである。本授業では、古代から中世、近世、近代、現代へと続く西洋美術史の大きな流れについて概説する。絵画を中心に、彫刻、建築等、各時代の美術様式の特徴を理解できるように、映像やパワーポイント、プリント等の写真資料を紹介しつつ講義することにより、西洋美術の通史的な流れを理解させることを目標とする。
西洋美術史 B	講義	2		1年	○				本授業は、近世17世紀から現代までの流れを解説しながら、西洋美術史についての知識をより深めるための科目である。前期に「西洋美術史A」で習得した西洋美術の基礎知識を踏まえながら、各様式の特徴的な絵画、彫刻、建築等について、具体的な例を取り上げて解説する。西洋では、美術は時代やパトロンの権威を反映しつつ、過去を否定し、新しい様式が次々と生み出されていった。美術の背景にある社会や文化等との関連についても適宜紹介することで、西洋美術に対する理解をより深めさせ、現代人としての教養、審美眼、美的感覚の醸成を計ることを目標とする。
日本美術史 A	講義	2		2年	○				人間の創造性と感性の所産である美術について、多様な展開をとげた日本美術の歩みを各時代の代表作によって概観し、その基礎知識を学ぶとともに、人びとの暮らしや生活空間と密接に結びついた日本美術の特徴的なテーマについて、時代と空間を往来しながらその特質を学ぶ。さらにこれからの美術史を構成する美術作品が文化財として保護・活用され、新たな美的価値の創出に果たす意義にも理解を深めつつ、機会をとらえて美術館において実作に触れ、創造性を学ぶ美的体験の一助とする。
日本美術史 B	講義	2		2年	○				本授業では「日本美術史A」で学んだ日本美術の歩みの概要をふまえた上で、日本美術史の画期を彩った重要な絵師や仏師に焦点をあて、その足跡と代表的な作品を学ぶ。講義では、彼らがそれぞれの時代の潮流のなかで、いかに個性的創造を成し得たのかを理解するとともに、その作家がどのような影響を後世に与え、日本の美術を豊かにしたのかに踏み込む。
クリエイターズライブラリー	講義	2		2年	○				この授業は、学生が自分の専攻選択に役立てるためのガイダンスとして設定されています。 講義では、様々な分野で活躍するクリエイターや教員の仕事内容とその思考プロセスを紹介します。 各専門家が語る経験と知識を通じて、学生は幅広い視野を持って自分のキャリアパスを考える機会を得ます。 オンデマンドの授業とし、提示される録画を見て考えをまとめることにより、「多様なクリエイティブ業界を知る」「専門家の考え方を理解する」「自分自身のキャリア目標を明確にする」という能力を身につけることを目指します。
共通基礎 A	実技	6		1年	○				本授業では、4つのグループに分かれ[油彩][立体][写真][Photoshop]の全ての内容を、実技を通して学ぶアクティブラーニング及びオンラインを活用した授業である。※グループや学び方については履修登録の際、補足説明を行う。 [油彩] 油彩画の制作を通して、基本的な対象の見方、捉え方、画材の使用方法や特性を理解し表現する力を身につける。 [立体] 水粘土を使った自刻・半面像の制作を通して、モデリングの感覚を理解し、構造や空間を把握・探究する。観念的に眺めるのではなく、注意深く観察する事を重視し、積極的に、3次元表現について考察する。 [写真] スマートフォンからデジタル一眼レフまでカメラの機種を問わず、レンズ特性や被写界深度を把握し、撮影ベースの実習をリモート・対面で行う。 [Photoshop] Photoshopを利用するにあたって、必ず使用することになるツールを中心に演習を行い、基本的な合成する力を身につける。
共通基礎 B	実技	6		1年	○				① 日本画作品の制作を通して伝統的な画材・技法についての基礎的な表現を習得する。 ② 凹版・孔版の構造を理解して制作プロセスを体験しながら、基礎的な製版・印刷技術を習得する。 ③ ブックレットの制作を通して、言葉とビジュアルによる表現方法と、デスクトップパブリッシングの基本について学ぶ。 ④ Adobe Illustratorの基本操作を学び、デジタルによる平面表現に必要な技術を習得する。 ⑤ Adobe PmireとAfterEffectsの基本操作を学び、デジタルによる映像表現に必要な技術を習得する。
共通基礎 C	実技	4		1年	○				本授業は、6つのグループに分かれ、下記の全ての内容について集中的に取り組み実技科目である。また本授業では、夏期40コマ（計9日間）を履修する。グループ分けや学び方については、履修登録の際に補足説明を行う。 [静物デッサン][人物デッサン][石膏デッサン] 様々なモチーフに対するデッサン経験を通じて、平面表現の基本を理解し、長時間の観察を通して自分の表現を考察する力をつける。 [パッケージデザイン] パッケージデザインの制作を通じて、グラフィックデザインが立体になることも考慮し、応用できる力を身につける。 [プロダクトデザイン] 身の回りの光をカタチ取る実制作を通じて、デザイン表現に共通に必要な観察力やプレゼンテーションする力を身につける。 [ファッションデザイン] ファッションの知識や基礎実習を通じて、立体的な構成を理解し、表現する力を身につける。
専門基礎 A	実技	6		2年	○	○			課題選択型の授業となります。「油彩」「日本画」「版画」「立体」「プロダクト（デジタルファブリケーション含む）」「前半」+Webデザイン基礎【後半】の5つの中から1つを選択します。 それぞれの課題の中で設定される素材について知り、技法や取り扱いについての理解を深めます。 ○油彩：油彩画の特性を理解し、形・構図・構成・色彩の調和（バールール）など油彩画制作における基本を修得し表現力を身につける。 ○日本画：日本画の基礎を学びながら写生を基本に静物・人物についての日本画を制作する。 ○版画：実験・検証・研究をテーマに、多様な製版方法と版表現を学び、個性的かつ発展的な表現方法を 用いた研究制作を行う。 ○立体：金属を使用した立体作品制作を通して、素材の特徴や魅力を理解し、構成やバランスを学ぶ。/モデリング・カービング、双方の性質を兼ね備えた「石膏」を使用し、イメージの「抽象的」「具象的」再現(制作)をそれぞれ一点ずつ行う。 ○プロダクト+Webデザイン基礎：身近な製品・道具のリデザインを行い、プロトタイプを制作し平面から立体へ形を忠実に起こす技法を身につける（プロダクト）+Webサイトの構造及びワークフローについて理解する。
専門基礎 B	実技	6		2年	○	○	○		① エディトリアルデザイン（戸澤・玉野） ページによる時間軸の概念及び視点誘導について演習を通し修得する。 ポートフォリオ制作を通じて、自らの作品について紹介する表現を身につける。 ② セレクション課題（全専攻の担当教員） 課題についての深い考察と検証を行う必要性について理解する。課題テーマを与えプロポーザル提出後10週で作品を完成させる。これまでの学習内容を踏まえ、3年次からの専攻を意識した創作活動を行う。作品を含め、希望と成績順を参考に専攻を決定する。

科目名称	授業形態	単位数		配当年次	ディプロマ・ポリシー				授業科目概要
		必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4	
卒業制作 A	実技	4		4年		○	○	○	(油彩)本授業では卒業制作として、油彩分野におけるオリジナル作品を制作させる。4年間の学習、研究の集大成としてこれまでに習得させた油彩の知識と技能、技法を踏まえて、個々の特性を生かし、密度を深め、完成度の高い作品を制作させることを目標とする。 (日本画)本授業では卒業制作として、4年間の学習及び制作の成果の集大成として、これまでに習得させた日本画 専攻における知識と技術・技法を踏まえて日本画作品を制作させることを目標とする。 (版画)本授業では卒業制作として、版画分野におけるオリジナル作品を制作する。ここでは習得した版画技法を活かし、各自の個性が版表現を通して十分発揮できるように、個別指導の機会とグループ講評の場を設け、完成度を高めた作品を制作する力を身につける。 (立体造形)本授業では、卒業制作として、立体造形分野におけるオリジナル作品を制作する。これまでに習得した専門知識と表現技術・造形思考のもと、提示環境なども含め、強度と説得力のある自己表現を確立する。 (写真・映像・メディアアート)本授業では卒業制作として、写真・映像分野におけるオリジナル作品を制作する。4年間の学習及び成果の集大成として、これまでに習得した専門知識や表現技術を踏まえ、各自のテーマに沿って写真・映像分野の制作・表現をすることを目標とする。 (グラフィック・イラスト)本授業では卒業制作として、グラフィックデザイン分野におけるオリジナル作品を制作する。グラフィックデザインがビジュアルデザインの有効な手段であることを認識し、社会に発信できる作品制作を通して、問題解決のために提案していく専門的な能力を身につける。なお、本科目は主なグラフィックデザインについて次の1から3の内容で担当教員が指導する。 1 雑誌・新聞等における広告表現を中心としたグラフィックデザインの作品制作を通して、異なるメディアにおいてメッセージを発信していく能力を身につける。 2商品開発・CI、VIなどの等に関連した広告表現を中心としたグラフィックデザインの作品制作を通して、問題発見及び問題解決していく能力を身につける。 3 パッケージ、イラストレーションデザインを中心としたグラフィックデザインの作品制作を通して広く伝えるデザインを発信していく能力を身につける。 (情報・プロダクトデザイン)この授業では、卒業制作として、情報デザイン分野におけるオリジナル作品を制作する。4年間の学習及び 成果の集大成として、これまでに習得した専門知識や表現技術を踏まえ、各自のテーマに沿って情報デザインの企画・提案をすることを目標とする。中間報告会やディスカッションなど、学生間での相互評価の機会も積極的に取り入れ、総合的かつ実践的な情報デザインの提案を身につける。 (ファッション・デジあるファブリケーション)より社会に適応する為の柔軟性と、各々が目的に沿ったデザインを提案すること。デザインに適したシルエットやフォルム、素材作り。クオリティの高い縫製技術と仕上げの完成度。
卒業制作 B	実技	4		4年		○	○	○	

社会学部地域社会学科

科目名称	授業形態	単位数		配当年次	ディプロマ・ポリシー				授業科目概要
		必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4	
初年次教育・情報リテラシー	講義	2		1年	○	○	○		・初年次教育：学生の自己理解と他者理解を促し、初年次学生が身につける「7つの力（主体的に学ぶ力、コミュニケーション力、問題を解決する力、自分を知る力、書く力、調べる力、話す力）」を学びながら、大学に対するポジティブな理解がもたれることを目的とする。 ・情報リテラシー：外界の刺激によって行動や意思決定に利用され、対象の理解や社会の輪郭に大きな影響を与える「情報」は、受け渡し、蓄えるという行為によって「知る」ことを実体化する私たちの営みに深く関わっています。しかし、目に見えにくい「情報」は、通信技術を通じ数量的に扱う機会が増える一方で、適切な取り扱いをより求められる機会が増えています。本授業では、体験を通し「情報」の受け手のみならず、発信するための技能や批評的・創造的な感性を身につけながら、自身の活動に利用していくことを学びます。
建学の精神と大谷学 A	講義	2		1年	○	○			札幌大谷大学は、鎌倉時代の僧侶、親鸞聖人（1173-1263）の仏教思想（浄土真宗）を建学の精神に据える大学です。仏教は、今から2500年前のインドで生まれた宗教です。その思想は、アジア各地の文化に影響を及ぼしました。日本文化の基礎にも、仏教の影響が色濃く認められます。 この授業では、仏教思想を学ぶことを通して、仏教の思考法と日本文化の背景を理解すると共に、札幌大谷大学で学ぶ意義について考えます。
市民社会と人間関係	講義	2		1年				○	社会は人と人の「つながり=関係性」によって成り立っています。「市民社会」とは、社会の近代化のなかで、個人の自由が平等に保障される領域として考え出された理念です。そこでは、一人一人が尊重され、寛容に認め合うことが重要となります。「市民社会」で果たすべき私たちの責任を問いつつ、現代社会の状況を批判的に捉え返してみたいと思います。本講では、社会現象を読み解くために必要な基本的な社会学の理論をベースとして、市民社会における人間のつながりの様相を探っていきます。
キャリアデザイン論 A	講義	2		1年	○				キャリア発達論の基礎理論を踏まえつつ、大学で学ぶことの意味と社会で働くことの意味について考え、自分の人生を自分の力で切り開く能動的態度を身につけることの重要性を理解します。現代社会が抱える問題に目を向けながら、大学で学ぶことの意義について考え、これから始まる大学4年間を充実したものにするための道筋を立てます。自己の価値観や行動特性に気づき、自分の生き方のスタイル(自分軸)やテーマを探ることをねらいとします。
情報検索	講義	2		1年	○				大量かつ多様な情報が生まれ共存している情報化社会においては、自立したひとりの社会人として生きていくための基礎的な要素として、情報を読み解き評価する力、情報リテラシーを身につけることが求められている。授業では問題解決の典拠となる辞(事)典や参考図書の種類と特徴について学習するとともに、調査のプロセスを認識する行動を通して情報探索の技能を深める。
社会問題入門	講義	2		1年			○		ボランティア活動の原理原則を踏まえううえで、ボランティア活動やボランティアを取り巻く社会福祉の歴史、現在のボランティアを取り巻く社会や社会福祉の状況を明らかにする。
地域社会論Ⅰ	講義	2		1年				○	この科目は地域・都市の社会学への入門的な位置づけの科目です。前半では都市社会学の始まりから論じ、都市化という社会変動が何を生み出してきたのか、都市の社会的な効果について考えます。後半では現代の地域社会における都市的生活様式を支えているさまざまなインフラに焦点を定め、地域で生活する利用者の視点から都市インフラを社会的に分析することをめざします。この授業の目標は、都市化と地域生活を支えるインフラについての知識を現実社会に活用できるようにすることです。
地域社会論Ⅱ	講義	2		1年				○	地域社会は「地域」という限定された範囲でありながら、そこで人びとの多様な活動が関係し合っていく「社会」です。そこで、この授業では地域社会学科の4コースの学修と関連するトピックを織り交ぜながら、地域社会のさまざまな側面について学んでいきます。この授業の目標は、地域社会のさまざまな側面について基礎的な知識を得て、今後の地域社会についての学修の基礎を固めることです。
社会学基礎	講義	2		1年				○	社会学は人と人が日々関わり合う相互作用のあり方に注目することによって、人びとが社会をつくり、また社会に影響される現象を記述・説明していくとする科学です。この授業の目標は、近現代社会において社会学が取り組んできた問題と成果についての基礎を学ぶことを通じて、社会学の基本的な考え方とキーワードを理解することです。また、相互依存のネットワークにおける人間という発想と自律という価値との関係について考察し、その価値を実現するための社会的条件について反省的に理解することをめざします。
文章構成法	講義	2		1年	○				レポートや論文を書くために必要な表現力を実践的な練習を通して学ぶ。論理的な文章に必要な事柄を確認した上で、それを用いて実際に文章を書いてみるという練習を反復することで、表現力の向上を目指す。
社会調査入門	講義	2		2年			○		質問紙調査による量的調査手法に基づいた情報収集と分析のための基本的知識を学ぶ。テーマ設定から仮説構築・サンプリング・設問構成等の調査技法やマナー及びデータ解析手法を調査事例に基づいて学習し、量的調査の一連の流れを理解する。
社会調査応用	講義	2		2年			○		面接聴き取り調査をはじめとする質的調査手法に基づいた情報収集と分析のための基本的知識を学ぶ。テーマ設定から質問内容の検討、実施、分析に至る質的調査の技法やマナーについて調査事例に基づいて学習し、質的調査の一連の流れを理解する。
文書実務 (Word)	演習	1		1年	○				この科目は文書作成ソフトWordの使用技術の習得を通して、日常生活やビジネスシーン、アカデミックライティングなど、多様な文書の作成技術の習得をめざす。Wordは文書作成はもとより、表作成やグラフィックなど多様な機能を有する。授業では、実際に「調べて」、「考えながら」さまざまな文書を作成することに主眼を置き、Wordの機能を活用できること、多様な文書作成のスキルを習得することを目標とする。 授業終了後、学内で実施する「文書デザイン検定試験」を受験することができる。
情報処理演習 A (Excel)	演習	1		1年	○				コンピュータ操作に関する知識と技術の習得を目的とする。具体的には、データ処理や分析のための道具として使う表計算ソフト (Excel) を操作できる基本的知識を習得する。データの収集方法や収集したデータの加工方法、分析方法、その解釈に関する基礎的な技能を身につける。
情報処理演習 B (Excel)	演習	1		2年	○				「情報処理演習Ⅰ (Excel)」を基本として、今後社会調査を学ぶうえで必要となる情報処理能力を習得することを目的とする。具体的には、1つの変数の特徴や2つの変数の関係など基本的な統計量を用いたデータ処理や分析を表計算ソフト (Excel) で行うことができる基礎的な技能を身につける。
文章要約実践	演習	1		2年	○				前半では、文章を要約する方法を実践的な練習を通して学ぶ。その後、レポート作成に必要な基礎的な事柄について課題に取り組み、要約や文章作成の練習を行う。
論理的文章作成実践	演習	1		2年	○				前半では、レポートや論文を書くために必要な読解力や表現力を実践的な練習を通して学ぶ。その後、社会学部の4コースの内容に即した基礎的な事例について各コース担当者からの説明を踏まえて課題に取り組み、論理的に自分の意見を示すための練習を行う。
地域課題研究Ⅰ	演習	1		3年		○	○		専門演習のゼミナールごとに、札幌市内及び近郊でフィールドワーク経験を積むことを目的とする。フィールドに入る準備、インタビュー調査の実施までのプロセスを経験を通して学ぶ。
地域課題研究Ⅱ	演習	1		3年		○	○		現地調査で収集したデータを整理・分析して、根拠にもとづいた知見を引き出す。収集したデータと分析結果を調査報告書にまとめ、報告会を実施する。
基礎演習Ⅰ	演習	2		1年		○			レポート・論文の書き方を説明したテキストをしっかりと読み込み、ポイントを整理して、その内容をレジュメにまとめる方法を実践的に学ぶ。また、レジュメをもとにしてテキストの内容を他者に説明することを通して、テキストの理解を深める。さらに、ゼミリアルタイムや新聞等を活用し、特定の話題について自分の意見を発表する機会を設け、プレゼンテーション能力を養う。なお、2時間目は履修指導・個別指導の他、フィールドワーク報告会の準備や課題学習等を行う。
基礎演習Ⅱ	演習	2		1年		○			思考法・発想法を説明したテキストをしっかりと読み込み、ポイントを整理して、その内容を要約する方法を実践的に学ぶ。また、要約を踏まえてレジュメを作成し、その内容を他者に説明することを通して、テキストの理解を深める。さらに、新聞等を活用し、社会的な課題への関心を広げることも行う。
専門基礎演習Ⅰ	演習	2		2年		○			前半では、社会学の基本的な概念を使ったテキストを用いて、レジュメを作成し議論を行い、その内容に対する理解を深める。後半の合同ゼミでは、3年次・4年次の専門ゼミの概要を学び、次年度以降の専門ゼミ選択への意識を高める。また、一年を通して、新聞等を活用し、社会的な課題への関心を広げることも行う。
専門基礎演習Ⅱ	演習	2		2年		○			現代社会の労働の問題を論じているテキストを読み込み、ポイントを整理して、その内容を分かりやすく他者に伝える方法を実践的に学ぶ。また、他者との議論を通じて、テキストの理解を深めると共に、議論の仕方そのものについても学習する。さらに、テキストで取り上げられている問題を通じて現代の日本社会のあり方について自分自らの考察を行う。なお、2時間目は履修指導・課題学習等を行う。
専門演習Ⅰ	演習	1		3年		○			3年次前期配当の少人数ゼミです。1、2年次に学んだことを踏まえて専門的なゼミ活動で学びを深めます。
専門演習Ⅱ	演習	1		3年		○			3年次後期配当の少人数ゼミです。1、2年次に学んだことを踏まえて専門的なゼミ活動で学びを深めます。
専門演習Ⅲ	演習	1		4年		○			4年次前期配当の少人数ゼミです。3年次までに学んだことを踏まえて卒業研究と連携しながら専門的なゼミ活動で学びを深めます。
専門演習Ⅳ	演習	1		4年		○			4年次後期配当の少人数ゼミです。3年次までに学んだことを踏まえて卒業研究と連携しながら専門的なゼミ活動で学びを深めます。
卒業研究Ⅰ	演習	4		4年		○	○		専門演習でのゼミ活動を踏まえて大学教育で学んだ課題発見からその解決まで一連の研究を通して学ぶ。
卒業研究Ⅱ	演習	4		4年		○	○		専門演習でのゼミ活動を踏まえて大学教育で学んだ課題発見からその解決まで一連の研究を通して学ぶ。
地域実践	実習	1		1年			○		地域社会におけるボランティア活動に参加することにより、「社会問題入門」（ボランティア論）で学んだ理論に対する理解を深める。また、ボランティア活動を通して、地域社会の抱える課題やボランティア活動そのものの課題について理解し、他者と話し合いながらその原因について考え、その解決策の提案を試みる。なお、本授業は外部団体との連携にもとづくアクティブ・ラーニングの形式を取り入れる。

短期大学部保育科

科目名称	授業形態	単位数		配当年次	ディプロマ・ポリシー				授業科目概要
		必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4	
初年次教育・情報リテラシー	講義	2		1年	○				・初年次教育：学生の自己理解と他者理解を促し、初年次学生が身に付ける「7つの力（主体的に学ぶ力、コミュニケーション力、問題を解決する力、自分を知る力、書く力、調べる力、話す力）」を学びながら、大学に対するポジティブな理解がもたらされることを目的とする。 ・情報リテラシー：外界の刺激によって行動や意思決定に利用され、対象の理解や社会の輪郭に大きな影響を与える「情報」は、受け渡し、蓄えるという行為によって「知る」ことを実体化する私たちの営みに深く関わっています。しかし、目に見えにくい「情報」は、通信技術を通じ数量的に扱う機会が増える一方で、適切な取り扱いをより求められる機会が増えています。本授業では、体験を通し「情報」の受け手のみならず、発信するための技能や批評的・創造的な感性を身につけながら、自身の活動に利用していくことを学びます。
仏教と保育	講義	2		1年	○				札幌大谷大学は、鎌倉時代の僧侶、親鸞聖人（1173-1263）の仏教思想（浄土真宗）を建学の精神に据える大学です。仏教は、今から2500年前のインドで生まれた宗教です。その思想は、アジア各地の文化に影響を及ぼしました。日本文化の基礎にも、仏教の影響が色濃く認められます。 この授業では、日本人の倫理観・道徳観の基礎にある仏教思想を学ぶことを通じて「情操」について考えると共に、札幌大谷大学で「保育」を学ぶ意義を考えます。
保育原理	講義	2		1年		○			保育に関する基礎的知識を習得し、これからの保育のあり方について考えます。授業では保育の思想および実践の歴史、子ども親や子どもの権利の歴史について学び、保育とは何か、保育において大事なことは何かを考えます。また現行の保育所保育指針および幼稚園教育要領に示されている保育の原理について学び、現在の保育のあり方や目指す方向性について考えます。さらに子ども・家族を取り巻く現在の社会状況について学び、保育の課題について考えます。
特別研究Ⅰ（音楽）	演習	2		1年					①「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を踏まえ、保育者として必要な基礎的知識、音楽理論および技能を学ぶ。 ②音楽に興味を持ち、歌うこと、演奏することによって、音楽表現の多様性を理解する。 様々な材料を使ったものづくりを通し、素材の違いなど体験を通じて学び、感性を磨く。幼児の造形活動を考える上で必要な考え方や知識、技術を学ぶ。 本科目では、特に幼児期の運動発達の特徴と意義を理解した上で、体を使った様々な遊びを指導（援助）できるようにすることを目標に、多くの遊びを経験する。また、経験の中から遊びの楽しさを実感すると共に、遊びを立案する中で環境構成や指導計画への理解を深め実践力を養う。 昆虫をはじめとした自然に興味を持つことを目標にする。北海道で自然と触れ合う保育を実践する ために不可欠な身近な動植物について正しい知識を身につける。単に名前を覚えるのではなく、季節とのつながりに興味を持ち、声、匂い等の感覚を通して自然を感じる感性を磨くことの大切さにも気づく。1年間 屋外での観察も随時入れながら、身近な自然について学ぶ。 子どもを取り巻く社会に目を向け、さまざまな課題、子どもをめぐる社会問題と保育のかかわりについて理解し、多様な保育ニーズをとらえる。 保育士に求められるソーシャルワークとしての子育て支援を学び、保育所・児童福祉施設などの現場で応用できる知識と技術を理解する身に付ける。 自分の興味・関心を焦点化し、問題意識を抱くこと、自らの「問い」に対して、本授業では他学生との意見交換から何を知りたいのかを見出す。
特別研究Ⅰ（美術）	演習			1年					
特別研究Ⅰ（健康）	演習			1年					
特別研究Ⅰ（自然）	演習			1年					
特別研究Ⅰ（子育て支援・特別支援）	演習			1年					
保育者論	講義	2		2年		○			保育者とはどのような職業なのかを改めて考えて、今までの実習経験から自身の気づきを活かし、その専門性を理解する。また社会の変化を受けて止めて、子どもの成長に適切にかかわる学びや保護者とのかわり、関係機関や地域社会、同僚との連携を学び保育者の役割を理解する。
教育実習Ⅰ	実習	2		1年～2年			○		① 附属幼稚園において毎週、通年観察実習する。 観察視点に沿って観察・記録しその後、観察内容についての疑問点などをカンファランスする。 記録は次週に観察を加え提出する。「子どもとは…」「保育者とは…」「幼稚園とは…」「子どもとの関わり方」などの理解を深め、子ども親、保育親などを考え、築いていく基礎を学ぶ。 ② 観察の他に指導演習（学外実習事前指導・折り紙指導・わらべ歌など）を行う。 ③ 附属幼稚園において2日間の参加実習を行う。
保育・教職実践演習（幼）	演習	2		2年			○		本授業は教職・保育士職課程の総仕上げの演習である。これまでの学習内容と教育・保育実習の体験を踏まえて、各学生が保育・幼児教育者として身につけておくべき責任感・使命感・社会性・保育者像を形成し、子ども理解・保育内容（5領域）の指導方法を習得することが目的である。各領域の専門教員がロールプレイや討論を取り入れ、オムニバス形態で進める。
総合表現	演習	2		2年				○	子どものためのミュージカルをグループで創作し、音楽を活かした表現方法を学ぶと共に、共同制作における役割分担や全体の連携の重要性について認識を深める。今まで学習してきた学びを、舞台芸術表現へ発展させ、保育者に必要となる非認知能力を高めていく。脚本に基づき、表現に適した大道具、小道具、衣装、器楽曲、歌唱曲、効果音、照明計画などを制作し、セリフや動作、振り付け、場面転換の練習をする。

短期大学部専攻科保育専攻

科目名称（授業形態）	単位数		配当年次	ディプロマ・ポリシー					授業科目概要
	必修	選択		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	
発達心理学特論Ⅰ（講義）	2		1年		○				子どもの発達や学習の諸相について探求する際には、関連する心理学の理論を学ぶと同時に、その実証的な新しい研究成果に触れることが重要である。本講義では、子どもの発達を捉える視点及び子どもの学習と保育の関わりについて学ぶとともに、各々の学生の興味関心に基づいて最近のジャーナルより選択した論文を紹介し、それに基づいた教員の解説により理解を深める。
発達心理学特論Ⅱ（講義）	2		1年		○				「発達心理学特論Ⅰ」では、発達心理学の実際の研究事例について学んだ。この「発達心理学特論Ⅱ」では、その応用として、様々な調査・観察を実際に行いながら、各種研究方法について詳しく学ぶ。各々の手法の特徴や、実施上の留意点を知り、保育における子ども理解に各自が活用できるようにすることが主な目的である。心理学の代表的手法である、質問紙調査・観察・検査を取り上げるが、各々の具体的内容については、参加者の希望を取り入れて選定する。
幼児教育課程特論（演習）	4		1年			○			附属幼稚園の1クラスで、4月から1年間、定期的に観察・参加・指導実習を行い、その様子を記録する。続いてこの体験と記録をもとに保育の省察を行う。カンファレンス形態を取り入れ、日々成長し、変化する幼児に対する保育方法と保育内容を、1. 人・もの・自己との関わりから、2. 設定保育・自由保育・一斉保育等保育形態の側面から、3. 遊びの側面から検討し、理解を深める。1年間継続して担任教師とともに子ども達と接し、その成長の姿に関わり、感動体験を積み重ねていくことも重要な内容である。
日本語表現法（講義）	4		2年	○					① 文章表現力を高めるための基礎基本的能力を身につける。 ② 資料を活用して、論理性と説得力のある文章を書けるようにする。 ③ 説得力のあるスピーチの仕方を理解し、討論やパブリックスピーキングができるようにする。 ④ 聞く人に理解してもらえるプレゼンテーションの工夫をする。
保育内容研究「音楽」(演習)	2		1年				○		・コード進行や指揮法の基礎を学び、それらを使って簡易な伴奏付けや楽曲作り、演奏の指揮などを行います。 ・リトミックの鑑賞や体験授業を通し、リトミックの基礎を学びます。 ・楽曲制作や楽譜作成を通して、様々な音楽表現の仕方について学びます。
保育内容研究「美術」(演習)	2		2年				○		保育における美術の持つ役割を、実習などで経験した子どもの活動からイメージし、再確認する。美術と物語の要素を併せ持った作品を子ども向けに制作する。様々な身近な材料を使い、子どもの想像力と作る楽しさが高まる制作を実践する。多様な表現方法を組み合わせた表現としてミュージカルを製作し発表する。
修了研究(演習)	4		2年					○	「保育内容「環境」「健康」系」「幼児の自然と触れ合う遊びの実態」「幼児が身近な自然と触れ合える保育環境」「保育現場における食農教育」等に 関する研究論文を収集し、専攻科1年生科目「基礎ゼミナール」と同時開催するゼミで発表する。これまでの学習を基に研究テーマを決定し、指導教員のアドバイスの下に実験・調査を行い、得られた結果について科学的に考察し修了研究発表会でプレゼンテーションを行うとともに、論文としてまとめる。また研究遂行の過程において上記「基礎ゼミナール」と同時開催されるゼミナールで経過報告を行いディスカッションをする。 （保育内容「表現」系）受講学生は、保育内容「表現」や「言葉」に関する研究の中で、各自が設定する目標や幼児に関わる美術・音楽・言語・文化などの具体的なテーマを定め、その関心を学問的な問題意識へと発展させるために、専門文献を精読する。研究に取り組み、また、フィールドワークを行ったり、調査を行いながら考察を行う。研究を通しての学修成果については、研究経過発表会、研究成果発表会を経て、修了研究レポートとして提出する。 （基礎理論系）受講学生は、保育の基礎理論に関連して、これまでの授業、実習等を通して生じた興味・関心を基に、各自の研究テーマを設定し、担当教員の指導のもと研究に取り組む。テーマとしては、子どもの心理発達に関わるもの、特別な支援を要する子どもの発達支援に関するもの、保育の中での子ども理解とその援助に関わるもの、保護者支援に関わるものなどを扱う。研究の経過については、授業内で随時発表し、複数の教員からの指導と学生同士の質疑応答を通して、随時省察を行う。研究を通しての学修成果については、研究経過発表会、研究成果発表会を経て、論文として提出する。